

GIGAスクール構想による 学びの充実について

— しなのきGIGAプロジェクト（R03-R05） —

長野市教育委員会事務局 学校教育課

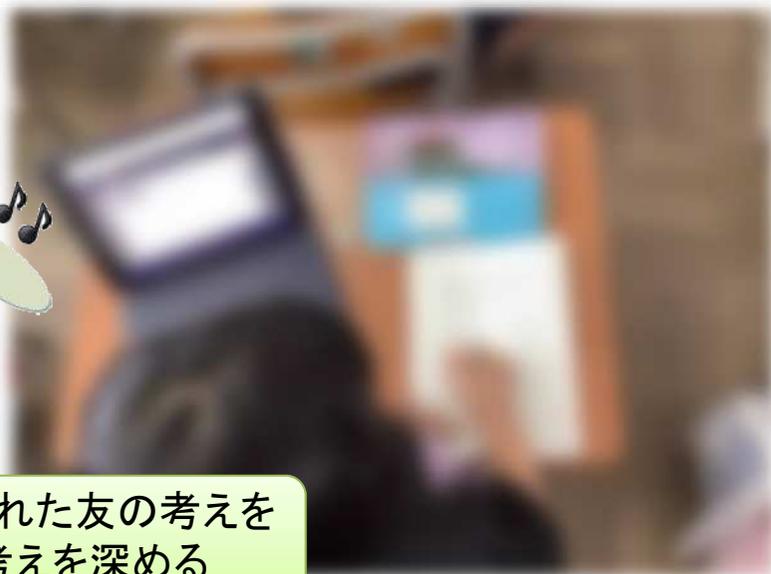


春の動植物の様子を
写真撮影し、交流



小学校

グループで練習の
成果を振り返る



端末で共有された友の考えを
参考に、考えを深める



画面をタッチ操作しながら
自分の考えを整理する

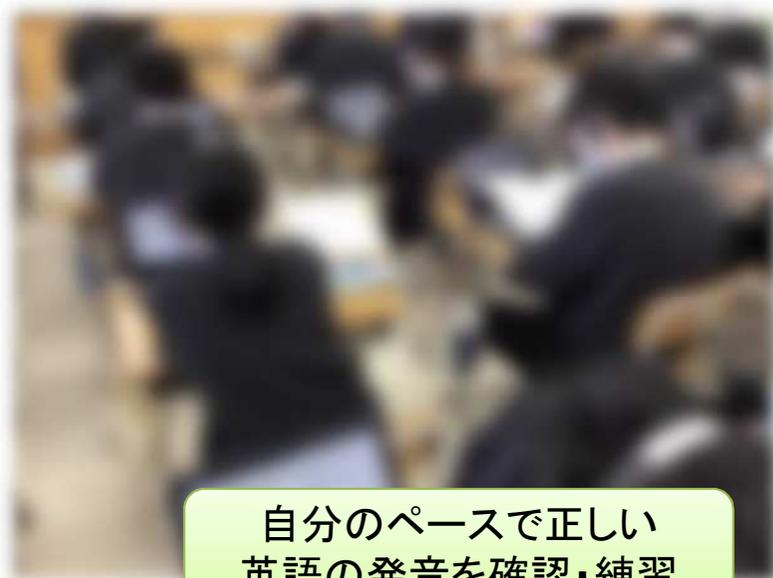
中学校



ネット検索により
情報収集・整理



地域にある遺跡を取材



自分のペースで正しい
英語の発音を確認・練習



端末を見ながら
互いに意見交換し合う



GIGAスクール構想

Global and Innovation Gateway for All

出展：「GIGAスクール構想の実現へ」
(文部科学省)

- 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する。
- これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す。

これまでの
教育実践の蓄積



ICT



学習活動の一層の充実
主体的・対話的で深い学びの
視点からの授業改善

一斉学習

子ども一人一人の反応を踏まえた、双方向型の授業が可能に

学びの
深化

個別学習

一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた学習が可能に

学びの
転換

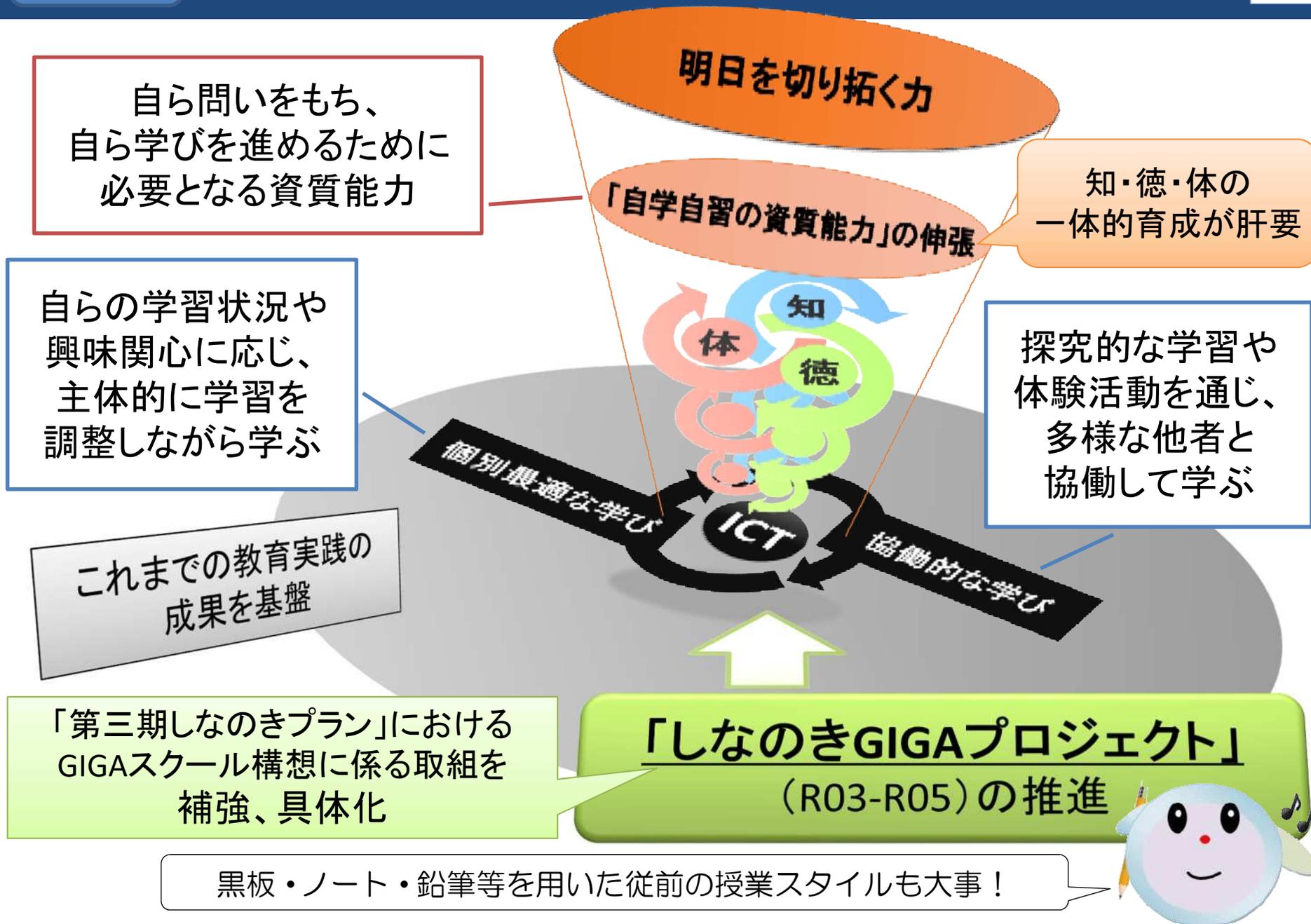
協働学習

各自の考えを即時に共有し、多様な意見にも即時に触れられる

第三期しなのきプラン
全体イメージ図

「GIGAスクール構想」推進の基本理念

授業等における1人1台端末の効果的な利活用をとおして、
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、
すべての子どもたちの**自学自習の資質能力**を伸張する。



令和5年度内に・・・ “Any^{for}4 All ! ”

Anytime

必要な場面で

Anywhere

最適な場所で

Anyone

多様な他者との交流・協働に

Anyway

目的に応じて自由自在に



ICT端末を学びに活用できる能力と環境をすべての子どもに

令和3年度

令和4年度

令和5年度

令和6年度

令和3年8月
1人1台端末の
配備完了

令和3年度内(予定)
「円滑な利活用の促進に向け
た考え方」整理・公表(文科省)

令和5年3月(予定)
ネットワークの整備完了
(SINET接続)

令和6年4月(予定)
デジタル教科書導入
(文科省)

- 教職員の指導力向上
- 家庭と地域への啓発・協力依頼

I

1人1台端末による
学びの深化・転換

- (1) オールインワンソフト「ミライシード」を軸に進める授業改善
- (2) 多様な教育課題への対応
- (3) 家庭学習の充実

II

情報活用能力
(実践力の育成)

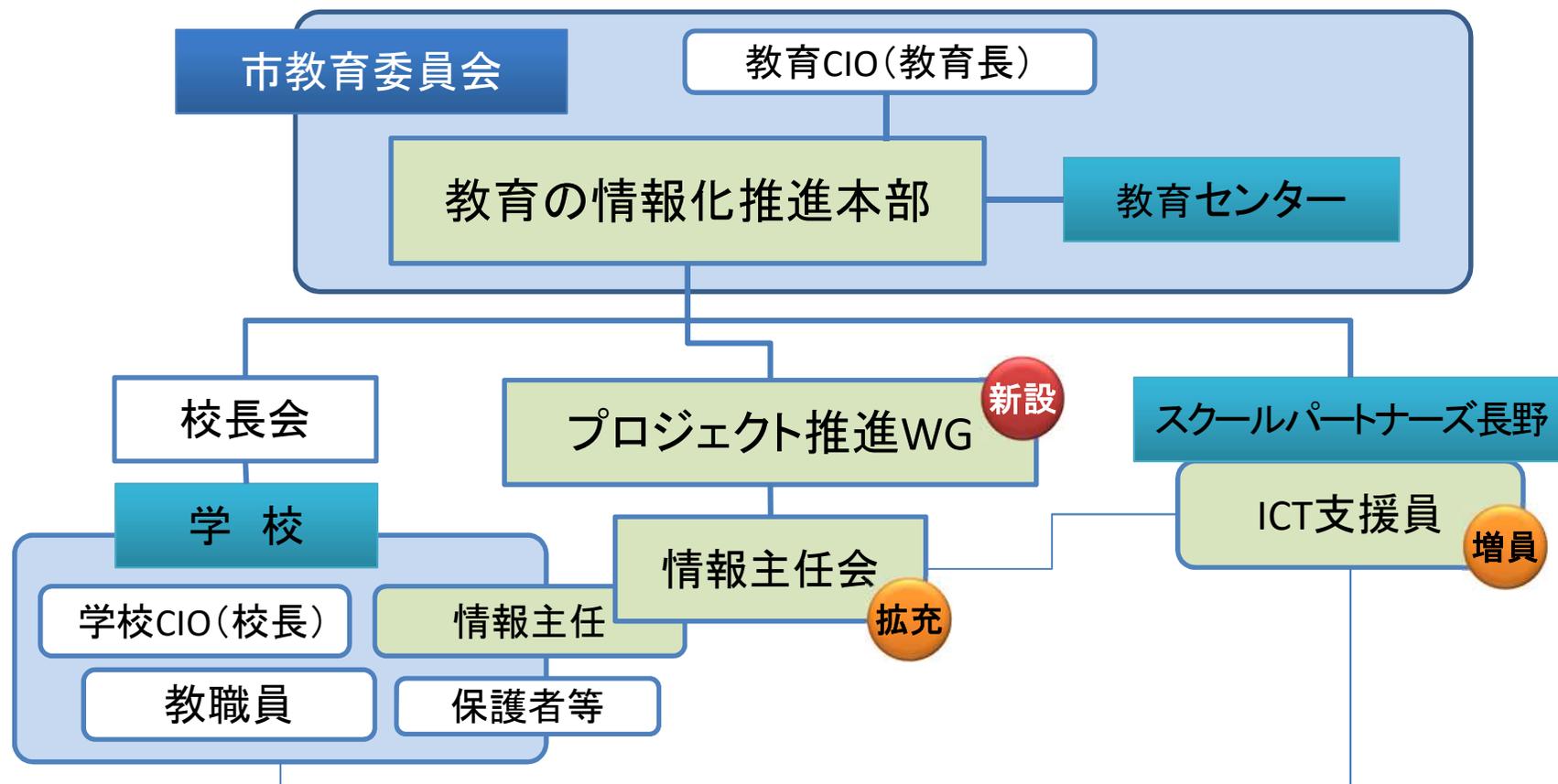
- (1) スタートアップメニューの提供
- (2) 実践力育成のための指導計画の作成・運用

III

ICT環境の充実

- (1) 校内のICT環境整備
・通信環境 ・人的環境
- (2) 多様な学習場所の提供
・家庭 ・公共施設

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
■ 教職員の指導力向上		端末活用の可能性を実感 実践例をもとに効果的に活用する 各種研修の充実	端末活用の可能性を発揮 効果的な組合せ	端末活用の可能性を拡大 学びを深めるために活用を工夫する 校内研修の充実
■ 家庭と地域への啓発等		GIGAスクール構想についての情報発信	保護者、地域住民を対象とした情報モラル等講座	学校との協働によるICT環境整備
Ⅰ 学びの 深化・ 転換	(1) 授業改善	オールインワンソフト「ミライシード」の積極的活用 端末を使って学ぶ	他者とのつながりを実感しながら	他のアプリ等との複合的な活用 目的に応じて学ぶ
	(2) 多様な教育課題	特別支援教育 多様な子どもの特性に応じて活用 不登校生支援 教室と子どもの居場所(校内)をつなぐ 休校等対応 学活等「心のケア」中心		多様な学びの場に応じて活用 教室(学校)と子どもの居場所(校外)をつなぐ オンライン授業による学習支援
	(3) 家庭学習	学校外での活用ルール作成 家庭等ICT環境の状況把握	モデル校での先行実践 先行実践を踏まえたルール等の更新	授業の予習・復習等、家庭での課題を明確にして 個々の課題に応じて
	Ⅱ 情報活用 能力	(1) スタートアップメニューの提供	専用HP(ポータルサイト上)の開設・運営 活用事例の収集・発信	データベース化 ワーキンググループによる研究推進、成果共有
	(2) 指導計画作成・運用	ベースプラン策定・周知	各校カリキュラム作成支援	各校PDCAサイクル確立支援・ベースプラン改訂
Ⅲ ICT環境の 充実	(1) 校内のICT環境	通信環境 インターネットの強靱化推進 人的環境 ICT支援員		SINET利用による快適化 ICT支援員+地域等ボランティア
	(2) 多様な学習場所	プラン施設WIFI環境整備	公民館WIFI環境整備(予定) 放課後、長期休業等の教室開放(試行) 非常時のルーター貸与	プラン施設での活用 多様な学習の場の提供 家庭学習用のルーター貸与

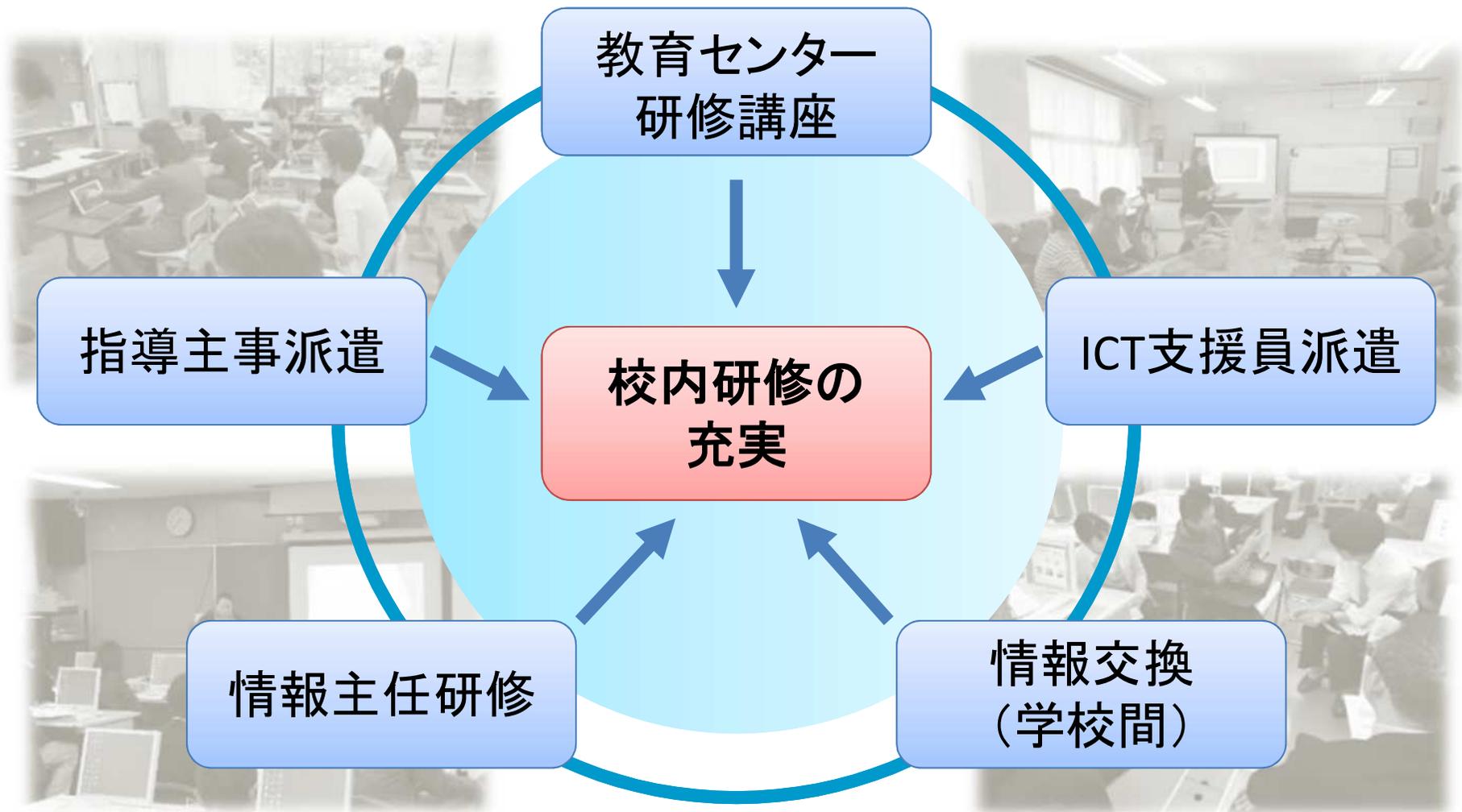


新設

プロジェクト推進のためのワーキンググループ

- 1人1台端末の効果的な利活用のための指導計画を作成
- 各校における端末活用状況の調査・研究、モデル事例の提供





各種の研修等の充実 & 効果的な組合せ
教職員同士が学び合う自主的な「校内研修」へ

■ リーフレット等による情報発信



■ 関係機関等との連携

- ・ 長野市少年育成センター
- ・ 各警察署
- ・ 医師会
- ・ 長野市PTA連合会
- ・ NPO法人
- ・ 企業
- 等



■ 各学校や公民館等での講演会等の開催支援（講師派遣等）

共通理解

- GIGAスクール構想により実現を目指す学びについて
- 安全で適切な端末利活用のための留意事項について 等

市立全小・中学校に導入した
オールインワンの学習支援ソフト



「ドリルパーク」(ドリルソフト)
個々の理解度に応じて学習(反復練習等)を進めることが可能

基礎基本の
定着

「個別最適な学び」
の実現

「個別最適な学び」と
「協働的な学び」の
一体的な充実

「協働的な学び」
の実現

「つながり」を
実感

ミライシード
利活用



これまでの教育実践

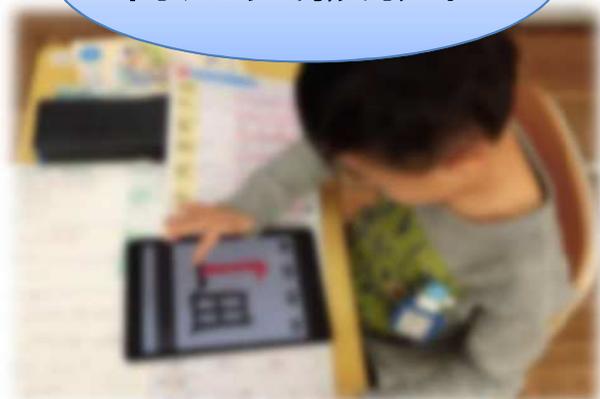


「オクリンク」(授業支援ソフト)
「ムーブノート」(協働学習ソフト)
画像やイラスト等を使って自分の考えを表現したり、互いの考えを共有したりすることが可能

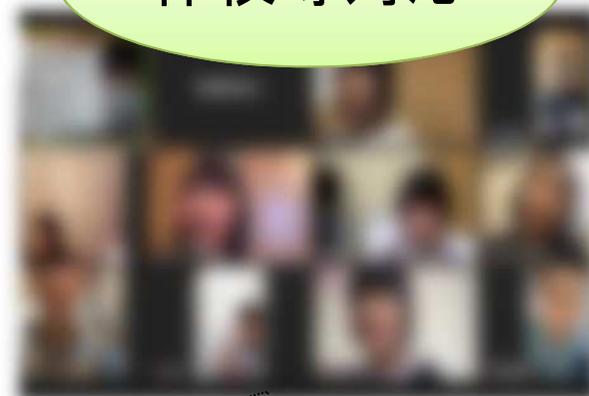


心と心のつながりを大切にして

特別支援教育



休校等対応



不登校生への支援



オンライン対応のための
マニュアルを作成・周知

一人一人のニーズに応じて

個別の教育課題への
対応の成果

他の教育課題の
対応への活用

より多くの児童生徒へ
教育活動全体の質の向上へ
成果の反映・活用

まずは

学校(授業)での
端末利活用の充実

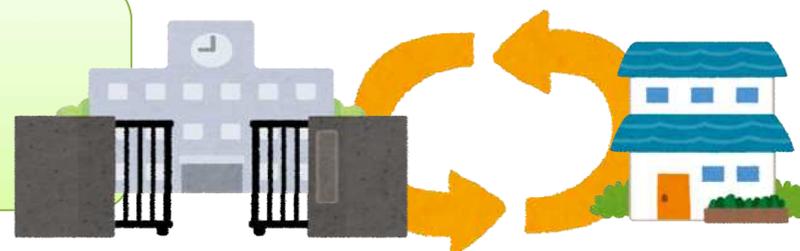
モデル校での
先行実践

- ワーキンググループによるモデルづくり
- 家庭で取り組む課題等の具体を検討
- ルール、システム等の見直し など

学校での学びと
家庭での学びの一体化

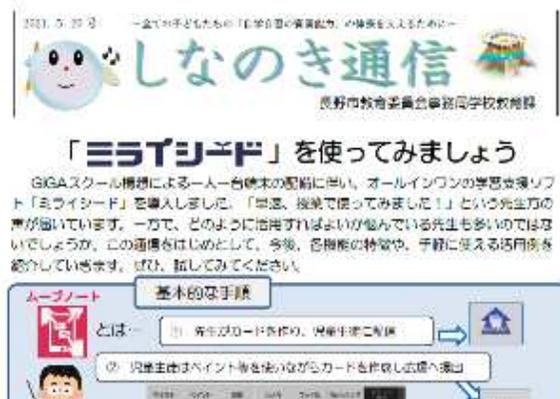
家庭での端末活用(例)

- 授業の予習、復習に取り組む。
(オクリンク、ムーブノート 等)
- 自己の学習状況に応じ、得意を伸ばす、弱点を克服する。(ドリルパーク 等)
- 発表資料作成など、友と協働して、課題に取り組む。(Office365 等)
- 自分の興味関心に応じた、探究的な学習に取り組む。(ネットでの情報収集、プレゼン作成 等)



端末の利活用促進
児童生徒の基本操作スキルの向上

■ 各校の活用事例(メニュー)を収集し、発信



児童生徒向け
利用マニュアルの提供



■ ポータルサイト上に専用ページを開設

- 教職員向け資料(「アプリ一覧」等)提供
- 児童生徒向け資料(「はじめてのipad」等)提供 等



児童生徒が自ら判断し、適切に・安全に
端末を活用できる能力と態度を育成

情報モラル
態度の醸成
(価値的・態度的側面)

人権教育
道徳の充実

基礎力

基本操作スキル
技術の獲得
(技術的側面)

情報セキュリティ
知識の獲得
(知的側面)

- 標準的な指導内容を「ベースプラン」として整理(参考1)
- 各校の指導計画作成を支援

例	基本操作スキル	情報セキュリティ	情報モラル
ベースプランと各教科等の活動をマッチング 例)小学校低学年	カメラで撮影する／保存する／文字入力する／検索する ➢ 生活科 「はるさがし」	自分の情報を守る大切さ ➢ 学級活動 「パスワードの役割」 (NETモラル教材活用)	人が作ったものを大切にする／生活の中でのルールやマナーを知る ➢ 道徳 [規則の尊重] 「みんながつかう ばしょでは」

より効果的な活用方法を考える、ルールを自分たちでつくる等
実際の利活用に基づく児童生徒の「問い」や「気づき」を重視

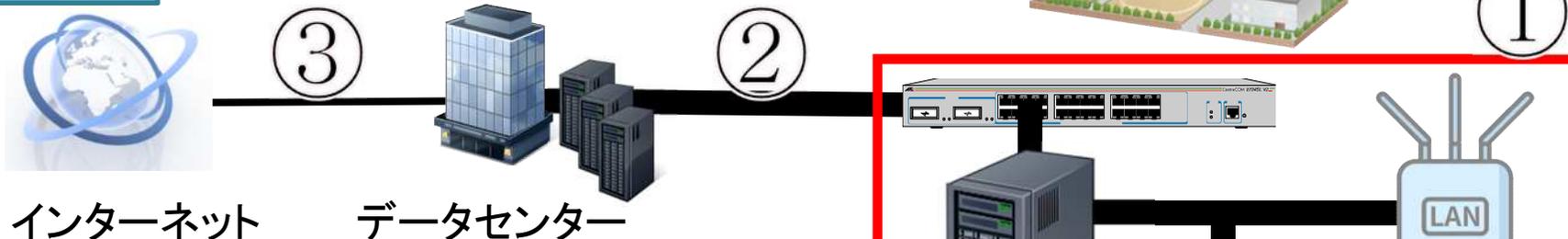
- 各校の指導計画に基づくPDCAサイクルの確立を支援

実践力

問題解決・探究における
情報活用

通信環境

教育ネットワーク整備



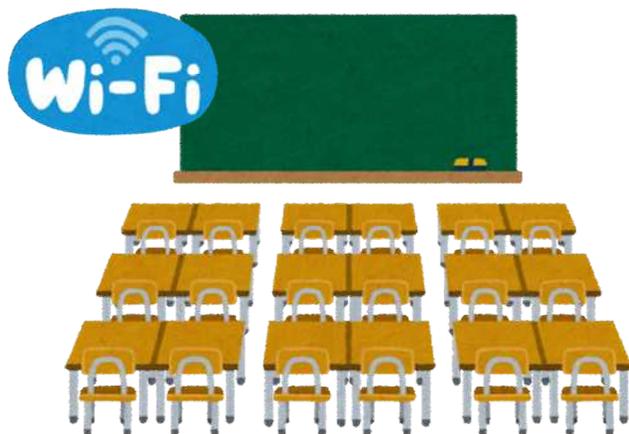
項番	内容	完了時期
①	GIGAネットワーク工事	R3.3
②	ネットワーク強靱化	R3.3
③	インターネット強靱化 (SINET利用)	R5.3

人的環境

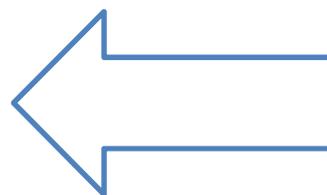
学校支援体制



学校（放課後や長期休業中等）



学習支援ボランティア



放課後総合
子どもプラン施設



令和3年度整備



公民館

令和4年度整備(検討中)



家庭

希望する家庭へのWifiルーター貸与(参考2参照)
※通信費については家庭負担を基本(検討中)

- 学習効果の検証（デジタル教科書を含む）
- 学校・教職員の実情に応じた支援
（ICT支援員の計画的な配置等）
- ICT環境整備に向けた地域社会（事業所等）
との協働・分担
- 端末の積極的利用により心配される健康問題
（視力低下等）の未然防止
- 教職員の負担軽減（働き方改革への取組）

等

文部科学省「情報モラル指導モデルカリキュラム表」を参考に作成

		ステージⅠ	ステージⅡ	ステージⅢ	ステージⅣ
基本操作 スキル		起動・終了する／アイコンを選ぶ／保存する／カメラで撮影する／文字入力する／検索する	多様な文字や記号を入力する／短い文章を入力する／印刷する／情報を表にまとめる／	長い文章を入力する／プレゼンテーションソフトを利用する／簡単なプログラムを組む／データを別の記憶媒体に保存する／画像・図表を複合させた資料を作成する	長い文章を素早く入力する／聞き手とのやりとりを含む効果的なプレゼンテーション／簡単なプログラムを組む／映像・画像・図表を複合させた資料を作成する
情報 セキュリティ		自分の情報を守る大切さを知る(IDとパスワードの役割)	自分の情報を守る方法について知り、正しく利用できる(セキュリティソフト)	情報の破壊や流出を防ぐ方法を知る(フィルタリングとセキュリティソフト)	基礎的なセキュリティ対策を立てる(個人情報の管理、フィルタリングとセキュリティソフト)
情報モラル	安全への知恵	<ul style="list-style-type: none"> 大人と一緒に使う 知らない人に連絡先を教えない 決められた利用時間を守る 	<ul style="list-style-type: none"> 危険や不適切な情報に出会ったときは大人に助けを求める 情報には誤ったものもあることに気付く(情報の信ぴょう性) 個人情報他人にもらさない 健康のために利用時間を決める 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を発信する責任と影響 自他の個人情報を第三者にもらさない(個人情報等の管理) 健康を害する行動の自制(ネット依存の危険性) 人の安全を脅かす行為をしない(SNSへの書き込み) 	<ul style="list-style-type: none"> トラブルに遭遇したとき、主体的に解決する方法を知る(迷惑メール、情報の拡散) 自他の情報の安全な取扱いに関して、正しい知識を持って行動する(個人情報管理) 健康面に配慮した情報メディアとの関わり(ネット依存の危険)
	情報社会の倫理	<ul style="list-style-type: none"> 約束や決まりを守る(タブレットPCの約束) 人が作ったものを大切に 	<ul style="list-style-type: none"> 相手への影響を考えて行動する(投稿内容の確認) 自分の情報や他者の情報を大切にする(作った人の気持ちを考える) 	<ul style="list-style-type: none"> 他人や社会への影響を考え行動する(ネットいじめ対策) 情報にも自他の権利があることを知り、尊重する(著作物の利用) 	<ul style="list-style-type: none"> 個人の権利を尊重する(責任ある情報発信・写真投稿の危険性) 著作権などの知的財産権を尊重する
	法の理解と遵守	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中でのルールやマナーを知る 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の発信や情報をやりとりする際のルールやマナーを知り、守る(書き込みや投稿の注意点) 	<ul style="list-style-type: none"> ルールやマナーに反する行為を知り、絶対に行わない(不適切な書き込み) 契約行為の意味を知り、勝手な判断で行わない(アプリ・ゲームでの課金) 	<ul style="list-style-type: none"> 違法な行為とは何かを知り、違法行為は絶対に行わない(誹謗中傷などの不適切な書き込み) 情報保護に関するルールを守る(著作権を守ること)

※ 情報活用能力のうち、児童生徒が自ら判断して、適切に・安全に端末を活用するための「基礎力」として考えられるものを段階ごとに整理。

※ 各ステージは各学年段階(Ⅰ:低学年、Ⅱ:中学年、Ⅲ:高学年、Ⅳ:中学生)を想定しているが、児童生徒の実態に応じて柔軟に捉え、各校の指導計画に位置付ける。

